

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	合計	30

事業所番号	4670105016
法人名	医療法人浜友会
事業所名	グループホームはまゆう
訪問調査日	平成19年12月7日
評価確定日	平成20年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670105016号		
法人名	医療法人浜友会		
事業所名	グループホームはまゆう		
所在地	鹿児島市喜入町6988番地1 (電話)099-345-0099		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年2月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤3人, 常勤換算7.2人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	月額1,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	89歳	最低	83歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人浜友会浜田医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設置者は長年地域医療に従事し、地域のかかりつけ医として地域保健の視点から認知症対策を推進する一環として当ホームの設立に至っている。地域で認知症の研修会を開くなど啓発活動をし、家庭生活の延長として当ホームでの生活を位置付けている。理念の一つに「お年寄りが幸福になることを通して、地域社会に貢献します」と掲げ、地域との密着を図り、地域の中でお年寄りが「ごく普通の毎日の生活」を送れるように目指している。職員同士仲が良く明るい雰囲気である。家族と職員との連携も密で、関東方面に居住している入居者家族も含め、どの家族も毎月面会があり、入居者の生活向上について協力あっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との連携、入居者の過去の経験を生かしたケアなど前回の課題については、全員で検討し、取組みがなされ改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で行い、運営者・管理者・職員間の共通認識が深まるなど評価が活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者家族や地域の代表等が参加し、定期的開催され、肥満対策への取り組みなど出された疑問や意見・提言などサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族アンケートを実施したり、家族会を開催し、家族等の意見を受ける工夫もしている。家族からの意見や苦情はあまり無いが出された意見等については即対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	入居者は地域の人が多く、友人や地域の人が季節の花を持参したりして遊びに来る。近くの小学校の下校時頃に散歩に出かけ小学生たちと話をしたりする。地域の祭りや文化祭などにも参加し交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との密着を図り、「お年寄りが幸福になることを通して、地域社会に貢献する」との理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時やスタッフ会議の時復唱し、全員が暗記して実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は地域の人が多く、友人や地域の人や季節の花を持参したりして遊びに来る。近くの小学校の下校時頃に散歩に出かけ小学生たちと話をしたりする。地域の祭りや文化祭などにも参加し交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で行い、運営者・管理者・職員間の共通認識が深まるなど評価が活かされている。また、外部評価の結果についても、全員で検討し改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表等が参加し、定期的開催され、肥満対策への取り組みなど出された疑問や意見・提言などサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鹿児島市の支所介護保険担当窓口等と連携を取り、インフルエンザ予防接種の助成をはじめ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「ほほえみ」は年2回発行し日常生活の状況や催し、地域との交流、運営理念などを知らせている。入居者ごとに家族等連携担当者をつけ、面会時や電話などできめ細かい報告をしている。金銭管理については、面会時に報告し、サインを受けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施したり、家族会を開催し、家族等の意見を受ける工夫もしている。家族からの意見や苦情はあまり無いが出された意見等については即対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員異動は無かったが、利用者へのダメージを防ぐために、研修など取り組みを予定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年次計画もあり、職員育成に力を注いでいる。19年度に介護福祉士に1名合格した。研修には積極的に派遣し、復命研修も実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム勉強会に参加し、地域のホームとの交流を図ったり、先駆的と思われる取り組みのホームとの意見交換を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどが医療機関からの紹介による入居である。事前に訪問し顔馴染みになったり、見学やホームでお茶のみをしたりしながら馴染るように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	だし汁の作り方や餅つき仕方、お茶の注ぎ方・出し方、生け花などそれぞれの特技・持ち味を出して、職員と支えあいながら、ホームでの生活を共にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ入居者の傍にゆっくり座り込んで、意見や思いを引き出すようにしている。家族の意見も参考にしながら、日々のかかわりの中で、観察し把握し本人中心の支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とケアマネージャー、担当者が入居者が介護支援や要望等について話し合い、入居者全員について毎月ケアプラン会議を開催し、スタッフの意見を反映した利用者本位のプラン作りをしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンス時に評価をして、必要に応じてプランの見直しをしている。状態変化時には家族の意見・要望を踏まえ、状況に即した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、定期的な受診により健康管理に配慮した支援を行っている。外出・外泊支援、美容室への送迎支援、墓参の支援など入居者や家族の要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診や、精神科、皮膚科等の専門医への受診支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして重度化や終末期に向けた指針を作成し、入居時に説明し同意を得ている。職員間でも指針を確認し、状況変化時には主治医と連携し対応するようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの失敗時などにもプライバシーや誇りを傷つけないように配慮した支援をしている。記録の管理や個人情報の漏洩についても研修や入職時に誓約書をかわすなどの対策を具体的に実施している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の気分や健康状態によりその人らしいペースで生活できるように、起床・食事・レクリエーション参加・入浴・散歩など意向に沿った支援をしている。調理への参加なども献立を見ながら、活動意欲を促す働きかけもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査や献立の希望調査をして、食事の内容にも利用者の意向を反映するようにしている。職員と協力して、調理の下ごしらえ、調理、配膳、下膳などできることをして、食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	金曜日を浴室の乾燥日に当てている他は、何時でも希望によって毎日でも入浴できるようにしている。気分や健康状態によって足湯や部分洗浄なども活用し、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブ・散歩・ぬり絵・唄などそれぞれの要望や特技を生かしたり、役割を持って行動できるように支援し役割・楽しみごと・気晴らしのできる生活としている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には近隣の散歩に出かけている。希望により温泉や石油基地・市営バラ公園などドライブや食事会・発表会などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	研修で鍵をかけることの弊害については全員理解し、日中は鍵をかけていない。見守りで支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火・避難訓練は年2回実施しているが、夜間想定の実習はしていない。区長はじめ地域の協力体制の働きかけはしている。緊急時の各種備蓄については水洗トイレ用の水については準備できている。		夜間想定防火・避難訓練の実施、及び緊急時対応の備蓄が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導助言を得ながら、栄養バランス・水分摂取量については確保できるようにし、身体状況や摂取機能も配慮した調理方法を取っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けをし、四季の草花を活けるなどして家庭的な雰囲気づくりをしている。音楽などの音量も調整され、光もやわらかく自然である。共用空間に置の間があるなど居心地よく過ごせる配慮がしてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分らしい生活空間をつくりのために、自宅から冷蔵庫など馴染みの生活用具を持ち込むなど入居者個々に即した居心地よく生活できる工夫がなされている。		